

武蔵野市第四期基本構想・長期計画策定委員会（第11回）会議要録

日 時：平成16年 2月16日（月）午後7時～9時30分

場 所：武蔵野市役所第802会議室

出席者：東原委員長・鶴川委員・廣瀬委員・増山委員
村田委員・古田土委員・永並委員
企画政策室長・企画調整課長・財政課長ほか

1. 開 会

2. 議 事

・武蔵野市第四期長期計画討議要綱（案）と事業実施状況一覧表について
【事務局】2月26日に全員協議会が予定されているので、次回の18日の策定委員会で討議要綱を完成させたい。

また、市民に読みやすいように、討議要綱のページ数は極力少なくしたい。
【委員長】 章から 章までは、今まで何回か見ている部分なので、問題ないと思うが、いかがか。

章で「総合評価」として第三期長期計画の総合的な評価を記載した。第三期長期計画が六つのまちづくり目標を掲げた時期というのは「失われた10年」の期間にぶつかり、市の財政も多くの影響をこうむった。また、社会が急速な変化をしているが、我々生身の人間のマインドセットはなかなか変えられない。これは仕方のないことだ。市は市民に直接向かい合っているという面で動きが慎重になるのはやむを得ないという視点だ。

また、第二期長期計画までは総合体育館を含めて多くの基礎的な施設をつくった。そして、ハコものづくりはほぼ終わり、しくみづくりへの転換に成功したことは非常に大きな成果だというのが私の評価だ。

もう1点は、長期的な課題でもあった、行財政を評価をする指標がないということだ。第三期では終わり頃になって、指標づくりがかなり進んだ。全体的には肯定的な評価になっているが、しくみづくりへの転換をしっかりとやったということと行政評価というものへの手がかりをつくったことが評価できる。

【委員長】次に第 章計画策定の基本的な考え方について検討する。

「リスクマネジメント」は最近、他の自治体もいろいろ言い始めているが、トップのマネジメントが重要である。

「防災センターの建設」では、いい加減なセンターがものすごく多いので、そのことを述べたところがある。

「コミュニティづくり」というのは、コミュニティセンターとか、そういうものだけではなく、日常のちょっとしたことが「コミュニティづくり」の基本だということを書いている。

「環境・都市基盤」の分野では、計画書としてはちょっと弱い。「セクターバランスの取れた」ということを書くなら、もう少し丁寧に書くべきだ。

「グランドデザイン委員会」はちょっと議論の余地がある。イースト吉祥寺に「再生」というのはきつ過ぎないか。

吉祥寺については、例えば環境浄化運動等を盛り上げ、いろいろと今までもしっかりとやってきたことを明記すべきだ。

【委員長】特に北口マーケットの将来像、イースト吉祥寺、南口は当然議題として出てくると思うが、グランドデザインはもう少し基本的なところから議論するはずなので、ここでは何も言わなくて良いというのが私の考えだ。それはグランドデザイン委員会に任せればいい。

【委員長】「市政の効率」や「アウトソーシング」については正面から記載する。今回、「アウトソーシング」は我々のキーワードとして、使っていきたい。

【委員】アウトソーシングは、一般的に、コストが安くなるという面と専門性が高まるという面がある。一方、「アウトソーシングの限界」も考えておく必要がある。

【委員長】保育の問題と家庭について市長も同じことを言っている。

【事務局】家族が子育てをアウトソーシングする場合に一番ポイントになるのは、コストの問題、そして手間の問題があるが、質を高めるためにアウトソーシングをするという視点よりは、むしろコストの問題の方が大きいのではないか。

【委員】今回は、個確立のために個人の自助・自立とアウトソーシング問題を取り上げたい。

次に「言語について」も取り上げたい。

また、言語だけで評価するような教育はまずいのではないかと感じる。言語に対してもう少し別の能力を認めていくような教育が必要だ。

【委員長】「身体・言語・自然」の中の「言語」だけを取り出して言うのはおかしくないか。

整理すると、「発話型能力」が大事だということは私も賛成で、これはキーワードとして書いて良いと思う。それから、「学ぶ能力には旬がある」、これも良いと思う。

【委員】「言語」だけではなくて、「身体・自然」ときて、あと一つ、本当はそれに並ぶものとして、例えば「心」という点がない。「心」の中には言語的、かつ知的操作ではない部分が入っていると思う。「身体・自然」から落ちている

部分が「心」の中に入っているのではないか。

【委員長】日本人は、時間をかけている割には英語が下手であるのはなぜかと考えてみると、言語以前のマインドセットにも大きな理由がある。そもそもコミュニケーションはあまり重視していない。しかし、言語が下手だ。下手な理由の一つは、子どもの時から貧弱な音だけを使い、それに慣れてしまっているからだと思う。早く慣れさせた方が良いが、子どもたちへの負荷の問題もある。

【委員長】今の子どもたちは、これから世界との競争には勝てなくなるのではないか。

子育てというのは最大の難関だ。本当は20年前から、皆わかっていた。当面は高齢者の問題が先に来た。子育てはなかなか難しいと思いながら、ほとんど手つかずに来た。子育てというのは、家族・夫婦の問題になる。つまり、どう選ぶかというイデオロギーの問題になる。そしてそれは、客観的、普遍的な立場がないということだ。

子育ての問題は、何らかのイデオロギーに立たざるを得ず、どこの自治体が出来ても、そう簡単には解ける問題ではないだろう。